

科目名	哲学史特講	担当者	サイトウ 齋藤 ヨシユキ 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「哲学」とは「みずからの頭で考える」営為そのものです。しかしそれは、たんなる「一人よがり」であってはなりません。「哲学史」を学ぶことの意義とは、歴史上の優れた知性によって展開された様々な「思考」を「追体験」することによって、自らの思考力を鍛え上げることにあります。そのような学修を通じて目指してほしいのは、同時代において流通している「常識」をも相対化しうる巨視的な知性を身に付けることです。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的・批判的な思考をする能力を身に付ける。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。 関連する文献についても、積極的に参照すること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 文献読解とレポート作成を主にして学修を進める。一本のレポートを仕上げるための過程と必要時間の目安は以下である。文献読解(20時間) → レポート執筆(15時間) → 担当教員のコメントを受けての修正(10時間)。以上の過程において、疑問点等は manaba やメールで質問すること。</p>		
スケジュール	<p>前期・後期ともに、最初の数カ月でテキストと関連文献を十分に読み込んでおくこと。疑問点については担当教員に質問し、以下の期限に遅れないようにレポートを提出すること。</p> <p>「基本教材1」の「レポート課題1」を7月15日までに、「レポート課題2」を8月15日までに提出。その後、2つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を学事歴で定められた日までに提出。</p> <p>「基本教材2」の「レポート課題1」は11月15日までに、「レポート課題2」は12月15日までに提出。その後、2つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を学事歴で定められた日までに提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。
	観察記録	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 「哲学史」とは、完成品としての「思想」のカタログなどではなく、悪戦苦闘の「思考」のドキュメントです。まずは、受講者それぞれにとって切実な「問い」を発見してください。そのうえで、自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。 レポート執筆時には、読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： ①『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，2006年（ISBN4-00-431007-5） ②『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書，2006年（ISBN4-00-431008-3）
	古代から現代までを網羅する哲学史。①はタレスに始まり，プラトン，アリストテレス，アウグスティヌス，トマス・アクィナス等，古代から中世の哲学を解説。②はデカルトに始まり，スピノザ，ライプニッツ，ロック，バークリー，ヒューム，ルソー，カント，ヘーゲル，マルクス，ニーチェ，ベルクソン，フッサール，ハイデガー，ヴィトゲンシュタイン，レヴィナス等，近代から現代の哲学を解説。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は，担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは課題図書を通読したうえで，自分が一番おもしろいと思える哲学者（学派・テーマ）を見つけてください。その後で，それに関連する解説書なども読んでみましょう。可能であれば，その哲学者自身が書いた著作にもあたってみましょう。 ・「基本教材1」では，狭義の「哲学史」（哲学のテキストを対象として編まれた歴史）の基本的展開について理解することが目標です。
レポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し，その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 留意点： あくまで思想の「説明」に徹すること。
レポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人（ないしそれ以上）を選択し，両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 留意点： たんなる思想の説明にとどまらずに，受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ハンナ・アーレント 教材名： 『人間の条件』ちくま学芸文庫，1994年（ISBN：4480081569）
	この書の問いは実にシンプルです。「私たちは何をしているのか？」という問いです。アーレントは人間の行為を「労働」「仕事」「活動」の三つに分類し，それらの位置付けと意義が，古代ギリシアから近代にいたるまでにどのような変遷をたどってきたかを明らかにします。この書は，広義の「哲学史」としても読まれうるものです。
参考図書	川崎修『ハンナ・アーレント』講談社学術文庫，2014年（ISBN-13: 978-4062922364）
履修上のポイント	「基本教材1」で得た狭義の「哲学史」についての知識を活かしつつ，「基本教材2」では，広義の「哲学史」について学びます。古代ギリシアのポリス，望遠鏡の発明，労働形態の変化等，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的事象が，人々の世界観や価値観にいかにより大きな変化をもたらしたかを理解することを目標とします。
レポート課題 1	「労働」「仕事」「活動」という三つの「活動力」の違いについて説明せよ。（さらに可能であれば，それらの位置付けや意義が，時代の変遷とともにどのように変化したかについても説明せよ。） 留意点： あくまでアーレント自身の説明に即して記述すること。
レポート課題 2	『人間の条件』に学んだ知見に基づいて，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事に起因する世界観・価値観等の変化について，自由にテーマを設定したうえで論評せよ。 留意点： たんなる「要約」ではない「論考」としてのレポートを書くこと。

基本教材 1

第 1 回	基本教材の概要の把握
第 2 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第 1～10 章（古代）
第 3 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第 11～15 章（中世）
第 4 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第 1～10 章（近代）
第 5 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第 11～15 章（現代）
第 6 回	課題の設定と関連文献の研究（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第 7 回	関連文献の読解
第 8 回	関連文献の読解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の執筆と提出
第 10 回	レポート課題 1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の執筆と提出
第 12 回	レポート課題 2：初稿の執筆と提出
第 13 回	レポート課題 2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の執筆と提出
第 15 回	学修内容全体の総括

基本教材 2

第 1 回	基本教材の概要の把握
第 2 回	基本教材の読解：第 1～2 章
第 3 回	基本教材の読解：第 3 章
第 4 回	基本教材の読解：第 4 章
第 5 回	基本教材の読解：第 5 章
第 6 回	基本教材の読解：第 6 章
第 7 回	課題の設定と関連文献の研究（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第 8 回	関連文献の読解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の執筆と提出
第 10 回	レポート課題 1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の執筆と提出
第 12 回	レポート課題 2：初稿の執筆と提出
第 13 回	レポート課題 2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の執筆と提出
第 15 回	学修内容全体の総括